

日照不足対策としてのメロン'アムス'の整枝法

石津文人

摘要

寡日照条件下におけるメロン'アムス'の安定栽培法を確立するため、整枝法の検討を行った。

1. 遮光処理により、果重や糖度が低下し、ネットの発現は劣ったが、成熟期より果実肥大期の遮光処理の影響が著しかった。
2. 遮光処理による果実品質及び草勢の低下は、1 果当たりの葉数を同じにした親づる 1 本仕立てと子づる 2 本仕立てとでは、親づる 1 本仕立ての方が顕著であり、子づる 2 本仕立てにおいて、さらに葉数を増加することによりその軽減効果が著しかった。その原因としては葉面積の多さが関与していると考えられた。
3. 無着果株に対して、着果株の乾物重は著しく多く、果実は強い sink としてメロン'アムス'の光合成能力を向上させるものと推察されたが、着果数が多すぎると、葉や根の乾物の分配が減少し、株全体の乾物重は減少する傾向がみられた。
4. 単位葉面積当たりの乾物生産量は、播種期のずれを考慮すれば整枝法間には差は少なく、果実の品質は 1 果当たりの葉面積に比例すると考えられた。その結果、山間部でのハウス栽培におけるメロン'アムス'の 1 株 2 果どり栽培は、葉面積の確保が容易な子づる 2 本仕立てとし、1 果当たりの葉数を 20 枚程度確保する方法がよいと考えられた。